

婦人科内視鏡手術について

婦人科では子宮筋腫や卵巣嚢腫、子宮内膜症といった病気に対してきずのちいさな内視鏡手術による治療がおこなわれています。

10年ほど前まで開腹手術と呼ばれるお腹を10~15cmくらい切開しておこなう方法が選択されることが多かったのですが、近年そのほとんどが内視鏡手術で対応できるようになりました。婦人科ではお腹を小さく切開しておこなう**腹腔鏡手術**や、腔を通して子宮の中に子宮鏡を入れておこなう**子宮鏡手術**、そして腔の奥に切開を入れて、腔から腹腔鏡や器具を挿入しておこなう**経腔的腹腔鏡手術 (vNOTES)**を実施しています。

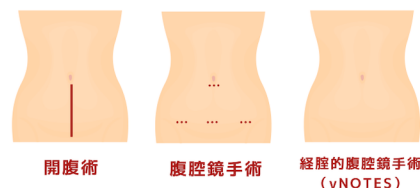
このような手術はきずがちいさく目立ちにくくなります。また、術後の痛みが少なく、入院期間が短縮できる可能性があります（忙しい女性にとって大きな利点となります）。

この10年ほどの間に内視鏡手術は急速に産婦人科手術の中心的方法として広まりました。今や特別な治療方法とは言えませんが、技術面で高度な手技を要求されるため医師の経験が重要です。現在、日本には日本産婦人科内視鏡学会の技術認定制度があります。この認定制度がすべての判断基準となるわけではありませんが、患者さんにとって一つの指標となるかもしれません。

当院にはこの技術認定を取得した医師が複数名在籍しており、ほぼ全ての内視鏡手術に入ります。安心して患者さんが内視鏡手術を受けられるよう医師、外来スタッフ、病棟スタッフ、手術室スタッフが協力してサポートしていきます。

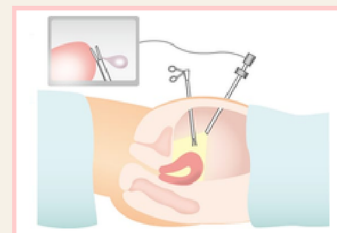


〈きずの比較図〉



日本産婦人科内視鏡学会技術認定医（腹腔鏡手術）

・小田 英之 ・山田 朝子 ・渡辺 紗奈

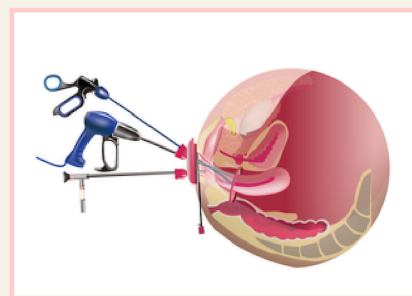


■ 腹腔鏡手術

へそを小さく切開し、腹腔鏡を挿入して手術をおこないます。きずはへその中に隠れてしまうためほとんど目立たなくなります。また、病気を切除するための道具を挿入するきずがお腹に何か所かつきます。通常はへそに約1cmのきずが1か所と、下腹部に約5mmのきずが2-3か所程度です。手術のバリエーションによりきずの大きさと数は多少前後します。

■ 経腔的腹腔鏡手術 (vNOTES)

腔の奥に切開を入れて、腔から腹腔鏡や器具を挿入しておこなう手術です。そのためお腹にきずはつけずにおこなうことができます。術後の痛みも少なく、入院期間の短縮、早期の社会復帰が可能になります。ただ、大きい腫瘍や癒着があったり、性交未経験のかたにはおこなえないなど条件があります。



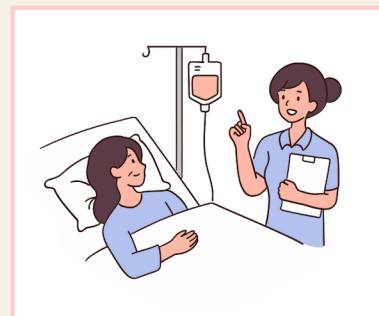
■ 入院から手術・退院の目安

手術の1~2日前の午後に入院していただき、前日には腸の中に便を残しにくい食事や薬を飲んでいただきます。

手術当日は朝から点滴をし、手術室に入ると間もなく全身麻酔で眠っていただきます。手術の時間は手術の種類により大きく異なりますので担当の医師へお尋ねください。

手術が完全に終了したところで麻酔から覚めます。意識は戻りますが、痛みを感じにくくするための点滴を使用しますので少しもうろうとした状態で病室に戻ります。術後の痛みは痛みを感じる前から鎮痛剤を使用しますのでご安心ください。もし効果が不十分な時には様々な対処をして痛みを抑えるようにします。

手術の翌日には歩いていただけます。食事も重湯から開始します。退院の時点では多少痛みはあっても歩いたり、日常の基本的な生活はできる程度に回復しています。お仕事への復帰時期は個人差がありますので担当の医師にご相談ください。



EIJU GENERAL HOSPITAL

永寿総合病院 産婦人科

台東区東上野2-23-16

お問い合わせは産婦人科外来へ！



03-3833-8897

月~金 9:00~16:30
土 9:00~12:30